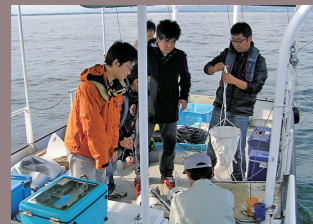
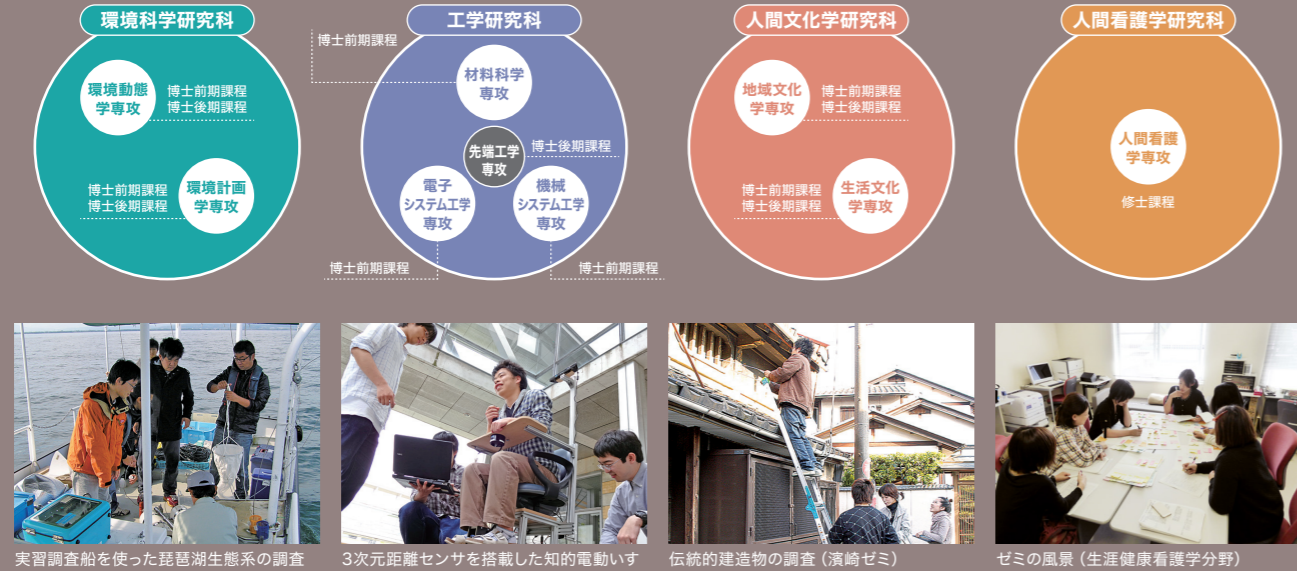


大学院



滋賀県立大学では、さらに学問を深めたい、もっと高度な研究に取り組みたいという声に応えるため、大学院を設置しています。



実習調査船を使った琵琶湖生態系の調査



3次元距離センサを搭載した知的電動いす



伝統的建造物の調査 (演習ゼミ)



ゼミの風景 (生涯健康看護学分野)

環境科学研究科 Graduate School of Environmental Science

環境動態学専攻

- Point 1** 琵琶湖生態系から自然環境の保全と管理について学ぶ
- Point 2** 持続可能な社会のための基礎研究
- Point 3** 遺伝子から景観まで幅広いレンジで学ぶ

本専攻では、自然生態系が人為的攪乱や環境変動に対してどのように応答するのか追求します。琵琶湖とその周辺環境の生態系をモデルとし、物質や生物群集の動態を調べることで、自然環境の保全と管理のための基礎的知見を集積します。一方で、自然が私たちに与えてくれる恩恵、いわゆる生態系サービスとしての農業のあり方について研究することで持続可能な社会の構築に貢献するため努力しています。これらの活動を通して、自然生態系の保全、あるいは持続可能な生物生産や資源利用に関して提言のできる人材の育成をめざします。

環境計画学専攻

- Point 1** 多様な分野の総合性と深い専門性
- Point 2** フィールドでの実践をベースに
- Point 3** 高度なプロフェッションの養成

本専攻は、環境意匠研究部門と地域環境経営研究部門からなります。環境意匠研究部門では、自然環境と共生する持続可能な社会環境の創出をめざし、安全で快適な生活空間・建築空間・都市空間を創造するための造形論・意匠論・計画論・技術論を追究しています。地域環境経営研究部門では、持続的な資源利用と地域経営、環境保全を可能にする地域社会のあり方を探るとともに、それを実現するための計画とその運用について教育研究を行っています。

工学研究科 Graduate School of Engineering

材料科学専攻【博士前期課程】

- Point 1** 先端分野で国際的に活躍する教員集団が指導
- Point 2** 様々な企業との共同研究による材料研究
- Point 3** 国内外の学術研究会における大学院生の発表

本専攻では、21世紀の高度化した工業技術の進展に貢献でき、地球環境に調和した先端材料の開発と研究を目指し、無機材料から有機材料までの各種材料に関する幅広い知識と開発能力を有し、さらに高度に複合化した材料にも対応できる人材を養成しています。本専攻では、無機材料部門と有機材料部門にそれぞれ3研究分野を置き、互いに連携しながら材料科学ならびにその関連分野について高度な知識の習得と深い理解、またその応用を図るための教育研究を行っています。

機械システム工学専攻【博士前期課程】

- Point 1** 深い洞察力に基づく基礎研究の重視
- Point 2** 新しい発想からの開発・研究へのあくなき探求心の養成
- Point 3** 社会に貢献する技術者・研究者の自覚と行動力の涵養

本専攻では、機械をシステムととらえ、機能の多様化や知能化を電子制御技術などの活用によって実現することを目指すとともに、人間と機械を取り巻く地球環境への影響を考慮した機械システムのあり方を検討するためにエネルギーや材料、加工技術を含めた広い視野から研究・教育を実践しています。このため、分野横断的な教育・研究が行えるように、エネルギーと動力、流体工学、材料力学、機械ダイナミクス、メカトロニクス、生産システムの各研究分野から構成された機械システム工学部門の単一部門としています。

電子システム工学専攻【博士前期課程】

- Point 1** 電気・電子・情報技術に関する高度な専門知識の習得
- Point 2** 産業界等の各分野において指導的役割が果たせる人材の育成
- Point 3** 持続可能な開発につながる電子システムの創成

本専攻では、電気・電子・情報システムの視点から、幅広い基礎知識を含む高度な専門知識を習得するとともに、顕在化している多岐にわたる環境問題が解決でき、ひいては持続可能な開発につながる電子システムおよびその関連システム・要素が創成できる有為の人材を育成します。このために、電子工学部門、電子応用部門および情報部門を置き、有機的に互いに連携しながら、工学上の諸問題に関して電子システムの立場から解を導き出すことができ、社会経済において指導的役割を果たせるような人が育つ教育研究を実践します。

先端工学専攻【博士後期課程】

大学院博士後期課程では、博士前期課程における教育研究の一層の深化を図るために、博士前期課程の全ての専攻を融合した先端工学専攻を置いています。本専攻では、研究者相互の知的融合や協同を通じて、高度な学問的見識や研究開発能力に加えて豊かな人間性をも兼ね備えた人材の養成を図り、また、人間と環境に適した科学技術創出と応用のための独創的研究を推進し、それらの産業への応用を目指しています。

人間文化科学研究科 Graduate School of Human Cultures

地域文化学専攻

- Point 1** 地域社会に残る文化資源の保存と再生、活用への取り組み
- Point 2** 地域社会の歴史から現状まで幅広いレンジで学ぶ
- Point 3** 地域社会から国際的に情報発信できる人材

本専攻では、日本・歴史文化論部門、日本・現代地域論部門、国際文化論部門の三部門を設け、グローバル化に適合する地域社会とはいかにあるべきかを、歴史的・文化的・社会的観点から追究する教育研究を展開します。日本・歴史文化論部門では、歴史学・考古学・美術史学などを基盤とし、近江や日本とその隣接地域の地域社会の構造や文化について教育研究を行います。日本・現代地域論部門では、社会学・地理学・民俗学・保存修景学・文化人類学・地域計画学などを基盤とし、近江や日本、その隣接地域の地域社会の構造や社会意識、ならびに地域活性化をはかるための方法について教育研究を行います。国際文化論部門では、文化人類学・近現代史・思想史・文学・言語学などの学問分野を基盤とし、欧米、アジア地域の文化および言語を対象とした研究をすすめ、世界に向けて情報発信できる人材育成を目的とした教育を行います。

生活文化学専攻

- Point 1** 専門分野の第一線で活躍する優れた教育研究スタッフ
- Point 2** 最先端の研究に取り組める研究環境
- Point 3** 実験・実習を重視したきめ細やかな指導体制

本専攻においては、生活科学と人間科学の立場からライフスタイルを取り扱います。人間のライフサイクル全般を通じた生活と社会とのかかわりを、生活デザイン、健康と栄養、人間関係の視点から根底的に見直し、真に充足した健康で快適な生活文化と生活環境とを生み出すための教育研究を展開します。このため、生活デザイン部門(生活デザイン論研究部門)、健康栄養部門(健康栄養研究部門)、人間関係部門(人間関係論研究部門)を設置しています。

人間看護学研究科 Graduate School of Human Nursing

人間看護学専攻

- Point 1** 実践活動と研究活動の両立をサポートする教育研究スタッフ
- Point 2** 実践活動を基盤とした研究活動の実施
- Point 3** 地域においてリーダーシップのとれる人材・高度な専門職の養成

本研究科では、多様なニーズを持って生きる人々を深く理解し、看護職の専門性をより高度に展開していくことができる主体的・独創的な看護職者の育成をめざします。このため、包括的・理論的・実践的な教育研究を行う「基盤看護学分野」、高度な看護実践を創造・開発するための教育研究を行う「生涯健康看護学分野」、施設および地域において慢性疾患患者に対するケア・予防の卓越したリーダーシップを発揮できる人材を育成する「CNSコース慢性疾患看護学分野」の3分野を設置しています。2019年度大学院助産師育成コース(仮称)開設にむけて準備中です(設置構想中)。